

13. 関連施設便り

産業医科大学医学部 不整脈先端治療学講座

教授 安部 治彦
准教授 河野 律子
秘書 佐藤 智代



同門会の諸先生方におかれましては益々ご健勝のことと存じます。不整脈先端治療学も本学医学部に設置されて早 12 年目となります。本教室には現在、私と河野律子先生（2019 年 4 月から准教授）、秘書の佐藤智代さんの 3 名が所属しています。この 1 年間の動きを報告します。

河野先生は、米国ミネソタ大学不整脈センター（Benditt 教授）で 2 年間の研究留学を終え本年 3 月に帰国、4 月から准教授に昇任しました。ミネソタ大学では、多くの研究業績をあげて帰国されたので、今後国内では失神研究の第一人者として国内外で大いに活躍されることを期待しています。

私は昨年 7 月から、日本不整脈心電学会のデバイス委員会総括委員長として、国内でのデバイス治療に関する責任者を務めています。診療ガイドラインやステートメント作成、合併症対策や新規デバイス、新しい適応取得のため医療技術評価分科会や中医協への提出書類の取りまとめ等、非常に多くの時間を費やしています。

また、国交省・事故対策協議会委員を委託されている関係で、「心臓・大血管疾患対策ガイドライン」を 1 年がかりで作成しました（おそらく同門会がある頃には国交省 HP に公表されると思います）。このガイドラインは法律（道路運送法および貨物自動車運送事業法）に基づいて作成されたガイドラインです。

本年 1 月には、World Society of Arrhythmia（世界不整脈学会：WSA）の理事に選出されました。WSA は、50 年以上の歴史（第 1 回は 1963 年 New York で開催）を有する国際学会で、4 年毎に学術大会が開催されます。学術大会の開催地は理事による選挙で決定され、1976 年には東京で開催されました。しかしその後は立候補はするものの対立候補に敗れ、日本での 2 回目の開催は残念ながら成し遂げられていません。本年は 11 月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催され、4 年後の 2023 年にはインドでの開催が決まっていますので、その 4 年後、即ち 2027 年に日本での開催を目指して立候補したいと考えています。

2020 年 7 月 1～4 日には、第 67 回日本不整脈心電学会学術大会（福岡国際会議場／福岡サンパレス）を大会長として開催いたします。今回から発表は全て英語とし、一気に国際化を進め海外からの一般演題も公募し、海外招待講演者も 50 名ほどに増やすことにしました。日本不整脈心電学会の国際化に関係者の同意は得られているものの、早急すぎるのではないかとの意見も一部でありました。しかしやるなら一気に始めるのが良いと考え、まずは始めることにしました。学内および学外にいる不整脈グループ員には、海外の著名な研究者と触れ合う大きなチャンスとなりますのでぜひ頑張ってくださいと思います。

以上、簡単ですが、この 1 年間の動きを報告しました。

（文責：安部 治彦）

産業医科大学病院 腎センター

部長・准教授 宮本 哲



腎センターの近況を報告申し上げます。産業医大病院腎センターには13台のベッドがあり、血液透析や血漿交換、血液・血漿吸着療法など体外循環を要する治療を行っています。腹膜透析外来と療法選択外来も腎センターで行っています。医師6名と専属看護師4名、臨床工学技師7名、看護助手1名で週6日の治療にあたっています。緊急の血液浄化にも適宜対応しています。平成30年度に施行した血液浄化回数は3,988回で、血漿交換やアフエーシス等特殊治療は185件でした。当センターではエコー下穿刺を積極的に取り入れ、より安全な穿刺が可能となっています。療法選択外来では腎代替療法の導入が近い腎不全の患者さんに来て頂き、血液透析・腹膜透析についてその実際を腎センタースタッフが解説し、腎移植についてもより丁寧に説明しています。具体的なイメージをもって御自身の治療方法を選択して頂けるようになっていきます。今後も安全に留意しつつ、地域の腎不全医療の砦としての機能を果たしていきたいと思っております。

(文責：宮本 哲)

産業医科大学病院 臨床検査・輸血部

部長・診療教授 竹内 正明



臨床検査・輸血部の近況をご報告させていただきます。

2019年3月でこれまで長らく技師長を勤めてこられ、検査部の運営に尽力頂いた本田雅久技師長が定年退職されました。2019年4月からは新たに中園朱実技師長が就任され、臨床検査・輸血部は新体制としてスタートしています。また、本田技師長の他4名の職員が退職あるいは定年退職され、新たに5名の新入職者を迎えました。これまで検査部を支えて頂いた中堅からベテラン技師が多数退職されましたが、今年度は活気に溢れた数多くの新人職員が加わっており、医師やベテラン技師による新人教育や技術トレーニングを通して、検査部の精度向上に精進して参りたいと思います。

また、昨年度は若手や中堅技師が積極的に研究会や学会での発表活動も行っており、さらに筆頭著者が技師の論文も2本アクセプトされました。忙しい日常業務の合間をぬり、臨床に貢献できる研究成果を報告できたことは非常に喜ばしい事だと感じております。

医師に関しては、検査部所属は3名で、各科の先生方からオーダー頂いた検査をいち早く、そして検査精度の高い結果を報告できる体制を整えることを行っております。まだまだご満足頂ける域には達せていない現状にはありますが、今後とも検査部が一丸となり質の向上に努めて参りたいと思っております。また我々医師も、研究会や国内学会に留まらず、国際学会での発表活動も積極的に行い、論文執筆も毎年行っております。2018～2019年度は当検査部から12本の論文がアクセプトされ、世界に向けて新たな知見を発信しております。

今年度は日本超音波医学会第29回九州地方会学術集会在北九州で開催されます。産業医科大学病院臨床検査・輸血部が主管となり、私、竹内が大会長を務める事となりました。第22回九州地方会学術集会在北九州で開催され、尾辻豊教授が大会長を務められ、盛大な学術集会であった事が記憶に新しいところです。第29回学術集会在も参加頂ける皆さまの期待に沿う充実した大会にするため、検査部の医師だけでなく、技師や運営委員会のスタッフの皆様方と協力し、準備に邁進しております。

最後になりましたが、我々臨床検査・輸血部がこのような業務や活動ができるのも、一重に同門の先生方、第2内科で働かれている先生やスタッフの方からの多大なるご支援のお陰と思っております。この場を借りて、御礼申し上げます。今後とも、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(文責：竹内 正明)



産業医科大学病院 集中治療部

講師 二瓶 俊一
助教 原山 信也
修練指導医 尾辻 健



同門の皆様、日々の診療お疲れ様です。多くの同門の先生方がICUでの診療を御経験され、辛かったり大変だったりの思い出、重症の患者さんが助かって良かった思い出など、数多くの思い出を持たれているのではないのでしょうか。

さて、最近なぜか病院経営のことを以前より意識するようになりました。

当院のICUは特定集中治療室管理料の中で最も高額である管理料1（症例あたりおよそ13,000点が加算されます）の加算対象となっております。病院経営のためには、10床の特定集中治療ベッドを出来るだけ埋めることが重要であると思います。ICUへの入室を迷う症例もいるかと思いますが、どうぞ遠慮されることなく御連絡下さい。

現在、加算を得るための施設基準は何とか満たしておりますが、円滑な診療を行うためには、当直体制を1人から2人にする必要があると考えております。当直2人制を導入するためにはICU医師の増員が必要な状況です。ICUを短期間でもローテートして下さる先生がおられましたら非常に助かります。

ICUでは重症の循環器疾患、腎臓疾患のみならず、小児から成人まで幅広く診療を行っております。重症の患者さんが軽快して非常に喜びを感じることもありますし、救命したくても救命することが出来ず辛い思いをすることもあります。やりがいもありますが、同時に責任やストレスも感じながら診療を行っております。特に急変時の対応を学びたい、あるいはgeneralistとしてのレベルアップをしたいと考えている若い先生にとっては、多くのことを学ぶことが出来る環境であると思います。御興味がある先生がおられましたら御一報頂ければ幸いです。

(文責：尾辻 健)

産業医科大学若松病院 循環器内科・腎臓内科

診療科長 長谷川 恵美



2018年度の若松病院は、診療科長として中俣潤一先生、病棟医長・外来医長兼任の檜山国宣先生、邨月玲先生、岡部宏樹先生という4人体制でスタートしました。6月からは長谷川恵美が着任、7月に檜山国宣先生が海外留学のため退職、同じく7月に清水昭良先生が着任しました。10月に岡部宏樹先生が産業医科大学病院へ異動、入れ替わりで早川裕樹先生が着任しました。11月からは村岡秀崇先生が着任しました。3月末で村岡秀崇先生、早川裕樹先生、邨月玲先生が退職されました。

2019年度は4月より古野郁太郎先生、松永千恵先生、宮本太郎先生が着任され、前年度と変わらず5人での診療体制となっております。

循環器内科は火・水・金曜日は心エコーができる技師さんが若松病院に不在となるため、心エコーのオーダーが出ると自分たちで検査を行う必要があります。それと並行して外来業務、病棟業務、心リハの対応、透析当番など、3人という少ない人数にも関わらず多岐にわたる仕事があるため、忙しい日々を送っています。また、他科の術前評価や併診依頼、周辺の病院からの紹介など、若松地区にとって、なくてはならない存在として頑張ってくれています。

腎臓内科としては、主に透析診療が大きく変化しています。中俣先生が大変なご苦勞のもと2016年5月に立ち上げてくださった透析室ですが、2018年6月からは正式に他科からのバックアップ透析にも対応できるようになり、9月からはバスキュラーアクセス手術、若松病院での新規血液透析導入も可能になりました。手術に関しては芳野病院の芹野良太先生をお招きし、日々診療にご協力いただいております。透析ベッドは10床と小規模ですが、現在午前の外来維持透析10名、午後の外来維持透析4名、残りは入院透析用のベッドとして活用しております。2019年5月現在、作成したバスキュラーアクセスは12例で、全例近隣の維持透析病院へ御紹介させていただいております。最近では他科からのバックアップ依頼も増え、少しずつではありますが本院の腎センターの機能に近づきつつあるのではないかと思います。とはいえ、月・水・金曜日以外や時間外には透析を行うマンパワー・体制等がなく、特に週末などに緊急で透析が必要となる場合はやむを得ず本院にお願いすることがあります。本院の先生方には度々ご迷惑をおかけしておりますが、いつも快く対応してくださり、大変感謝しております。

若松病院では心臓カテーテル検査やペースメーカー植え込みなどのような大きな検査・手技はできませんが、小規模の病院だからこそできることも沢山あります。産業医科大学病院という大きなバックアップがあるおかげで、若松病院は日々安心して診療ができております。この場をお借りして深く感謝申し上げますとともに、若松地区の総合病院として、また、産業医科大学病院の後方支援病院としての役割を果たし、さらに発展していけるよう今後も努力していく所存です。皆様、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

NTT 西日本九州健康管理センタ（福岡市）

産業医 矢野 聡
上野 啓通



左：守下先生

2017年4月よりNTT西日本九州健康管理センタでお世話になっております矢野聡と申します。当センタは、博多の中心地に位置し、NTT西日本グループ九州エリアにおける約1万9千人の社員を対象に、職場巡視、保健指導、健康教育などの業務を行っています。

2018年度を振り返りますと、大きなものとしては受動喫煙防止に向けた活動があります。2018年7月に健康増進法の一部を改正する法律が成立し、受動喫煙防止に関して言及されたことを受け、所有ビルの屋内完全禁煙を目指すよう、企業の意識改革を促しました。

なお、この活動にあたり、同門である大和浩教授（産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室）にご協力をお願いしましたが、快く引き受けてくださり、専門的な見解を踏まえた活動を行うことができました。この結果、企業には、受動喫煙防止の意識を持っていただくとともに、受動喫煙防止には屋内完全禁煙が必須であることについて十分理解していただきました。また、一部のビルでは、企業主体での屋内完全禁煙に成功し、大変有意義な活動となりました。この場をお借りして、大和浩教授に改めて御礼申し上げます。

一方で、「加熱式タバコ」に関する正確な理解に乏しいという現状があり、先に述べた「屋内完全禁煙」という目標が「屋内での紙タバコ喫煙禁止」にすり替わってしまう事案も発生しています。日本における「加熱式タバコ」の普及率は年々上昇しており、世界的にも群を抜いておりますので、今後はそちらに対する活動も強化していく必要があると感じております。

また、本年度は4月より新たに第2内科の上野啓通先生が赴任され、さらに活気ある職場となりました。この原動力を活かし、より発展的な活動を行っていく所存です。

皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（文責：矢野 聡）

東海旅客鉄道株式会社健康管理センター（名古屋、静岡）

産業医 松井京子（写真：右）
早川裕紀（写真：中央）
渡邊泰生（写真：左）



東海旅客鉄道株式会社（以下 JR 東海）における産業保健活動についてご報告いたします。JR 東海健康管理センターには現在 2019 年 4 月で 13 名の産業医を含む総勢 58 人のスタッフが在籍しており、所員一丸になって約 1 万 8 千人の社員の健康を支えています。JR 東海は事業所が東西は東京から大阪、南北も三重から長野など、関東・中部・関西と広範囲にあることから、各地域に担当産業医を設けています。大阪、名古屋、静岡、東京の 4 か所に健康管理室がありますが、定期的に各部署の産業医が集まり様々な懸案事項への検討や個別対応が難しい事案などを挙げるなど、連携した体制を取っています。

私は 2019 年 4 月より JR 東海で働かせていただいています。一般健康診断や新入社員の入社時健康診断、また車掌・運転士業務など公共の安全確保のために行う身体検査（医学適性検査）と様々な健診・判定業務、そして各事業所の職場巡視・面談を行い、社員の健康管理に努めています。勤務を開始して間もないため、未だ把握できていないところも多いですが、周りのスタッフの皆様のご助力により日々なんとか業務をこなしております。

また、私は社員の健康増進を目的とした生活習慣病プロジェクトチームに入りました。2020 年の改正健康増進法施行も視野に入れた禁煙対策や健康増進活動の施策など検討を重ねています。今回このような大企業の産業医として務めることができ嬉しく思います。前任の先生の成果を引き継ぎ、会社・社員のために頑張っていく所存です。（文責：渡邊 泰生）

2019 年 4 月より JR 東海健康管理センター名古屋健康管理室で勤務しております早川裕紀と申します。JR 東海という大企業の産業医として働く機会を頂き、誠に感謝しております。2013 年に産業医科大学卒業後からは臨床医としての経験しかなく、初めて産業医として勤務することに不安を感じていましたが、JR 東海の産業医の先生方は産業医科大学出身の先生方が多く、日々丁寧なご指導を頂きながら勤務しております。また、第 2 内科の先輩である松井京子先生もいらっしゃいますので大変心強いです。私は健康診断や医学適性検査を通して名古屋を中心とした各地区の社員の健康管理や職場巡視を通して作業管理・作業環境管理を行っております。メタボリックシンドロームや睡眠時無呼吸症候群など日々の臨床で培ってきた臨床医としての経験も生かしながら産業医として頑張っていきたいと思っております。保健師や臨床心理士、事務の方々と協力し、一日でも早く JR 東海健康管理センターの一員として貢献できるように日々努めてまいりたいと思っております。（文責：早川 裕紀）

東京ガス株式会社 安全健康・福利室（東京都）

産業医 福 中 康 志



現在、東京ガス（株）安全健康・福利室に所属し、常勤産業医として産業保健活動に従事しています。

2018年度、国内では「働き方改革」関連法が制定され、今年（2019年）4月から施行となりました。この中で初めて労働時間の上限が示され、ほかに産業保健機能の強化もうたわれました。過去の過労死事件などが契機となったわけですが、最初の素案提示から制定までかなりの時間を要した印象です。この法制化の過程では、経団連の中の労働安全衛生部会において、厚生労働省の担当官による説明の場が何度か設けられました。「働き方改革」関連法（労働基準法や労働安全衛生法などの改正）が対象とするのは事業主（企業）であり、同部会は厚生労働省にとって「企業側の考え」を聴取する場となっているようです。ちなみに、私は当社からの委員として同部会に出席していますが、周りの会員企業をみますと人事労務担当者を委員としている企業、私のような産業医を委員としている企業と分かれます。そして、後者の「産業医」である委員をみますと産業医科大学とゆかりのある方も多くおられます。

ところで最近になり、首都圏のある医科大学では、附属病院の経営改善策として「近隣企業からの産業医を通じた患者紹介」のルート開拓に力を注ぐため、各企業への積極的な産業医派遣を進めていく方針にしているという話を聞きました。私の場合は離れた地におりますので、担当する従業員を患者として産業医科大学病院に紹介する機会はありません。しかし、定年延長などで日本における高齢労働者の数は増加傾向にありますので、労働者がこれまで以上に医療の対象になっていくのだろうと感じています。

私自身については、変わらず周囲のサポートを得ながら何とか過ごせていると感じています。引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

九州健康総合センター（北九州市八幡東区）

産業医 中園 和利
古野 郁太郎



九州健康総合センターは新日本製鐵（現新日鐵住金）八幡製鉄所の健康管理グループを前身とし、昭和54年に企業外健康診断専門機関として分社化されました。現在は新日鐵住金八幡製鉄所をはじめ、北九州市内を中心に企業や事業所の総合的な健康管理を支援する目的で運営されています。2013年には市立八幡病院裏に移転し、新社屋となりました。

2017年4月より古野郁太郎先生と私、中園が九州健康総合センターに赴任してから、2年目となりました。当センターでの業務として、健診業務及び産業医業務を行っており、産業医としての主な仕事は過重労働面談や定期健康診断後の事後措置、メンタルヘルス対策、職場巡視などを行っております。臨床現場との業務内容との違いに戸惑うことは今もありますが、様々な会社や事業所を担当させて頂き、メンタルヘルスの重要性や過重労働対策の難しさ、職場ごとの環境の違いを理解することの重要性を痛感しております。

産業医科大学病院や関連病院の先生方には心電図異常や検尿異常などのご紹介でいつも大変お世話になっております。返書を頂いたり、職場の産業医として受診結果の確認をさせて頂いたりする機会があり、健診センターへのフィードバックだけでなく個人的にも大変勉強になっております。今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。（文責：中園 和利）



同期の中園先生とともに九州健康総合センターに赴任し二年目を迎えました。産業医科大学病院や関連病院の先生方にはいつも有所見者の紹介でご迷惑をおかけしております。センターでは12誘導心電図の判読を担当しておりますが、特に自分が直接診察していない受診者の心電図異常などは観察にするか要精査にするべきか判断に迷うこともしばしばあり、二人で悩みながら行っております。

産業医業務では様々な業種業態の事業所を担当させて頂き、とくに社員さんの面談で医学的意見を求められますが、同じ事業所でも現場ごとに事情が違ったりして、具体的な措置や指導に落とし込むのが難しいと感じています。ですが産業医として患者さんの社会復帰がなるべく円滑に進むような働きかけをしていけたらと思っております。同門の先生方、医局の先生方には今後ご迷惑をおかけすることと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

（文責：古野 郁太郎）



独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院（北九州市小倉南区）
循環器内科

高津博行



九州労災病院の近況について、現在在籍されている先生方に依頼し、今年も「一番印象に残った出来事」を掲載させて頂くこととしました。



高津より

今年度の九州労災病院は高津博行、村岡秀崇先生、今村香奈子先生、岩垣端礼先生、赤司純先生、中村圭吾先生の常勤医6名体制となりました。昨年度は前半4名、後半5名での診療体制であったことと比較するとマンパワーの有り難さを実感しています。

また、毎週木曜日午後は不整脈先端治療学の安部治彦先生に加え、第2内科の大江学治先生にも来院頂けることとなりました。不整脈診療もより充実し、今年度からは三次元マッピングシステムを導入し、CARTOシステムを使用したアブレーション治療も実施可能な体制となりました。

診療体制を拡充するにあたり病院との折衝は慣れないことばかりで、院長や事務局長への説明・依頼は緊張の連続であり、この一年「一番印象に残った出来事」になりました。幸いにも好意的に対応を頂けたのですが、これも今まで当院に勤務された先生方が頑張ってくれたお陰であると感謝している次第です。

マンパワーの充実を機に働き方改革も進めています。これまで当直翌日の勤務も通常通り行っていたところを、当直明けはなるべく早く帰宅する方針としました。また当直明けや希望する土曜日・日曜日に「オフコール」を設けました。夏季休暇以外の年休も5日は取るようにし、心身のリフレッシュやモチベーションの向上へと繋げていきたいと考えています。レジデントの先生の報酬面での待遇も、幾分ですが改善できたことも良かったと思っています。

より働きやすい環境へと変革を進めていくとともに、診療の質がより向上するよう、併せて一層の指導・教育にも力を入れていきたいと思っております。諸先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



村岡秀崇先生より

2019年4月1日より九州労災病院循環器内科に勤務となりました。細かく言うと、久原孝博先生の後を引き継ぎ、重症治療部の所属になります。2004年6月から2006年5月まで在籍しており、13年振りの復帰になりました。内科研修の頃に過ごした場所であり、もう一度働きたいと思っていましたので、医局長の津田有輝先生のご配慮に感謝申し上げます。

九州労災病院は8年前より新病院となり、昔の葛原の病院時代しか知らなかったもので、新しい病院で迷子になり、新しい電子カルテと格闘しながら、4月を何とか終え、ようやく少し慣れてきた感じです。自宅が若松区ひびきのものであり、往復約60kmを毎日走破しております（ETC機器も新たに装着しました）。循環器待機の日はずぐに駆け付ける必要があるので、病院近くの単身宿舎を借りて色々と活用しています。大学院時代・産業医時代・大学で働いている期間は主治医として患者さんを担当する事がなかったので、久し振りに主治医として患者さんを持つことになりました。また、大学時代は心カテ業務の担当でしたので、不整脈の患者を担当するのも久し振りであり、気持ち新たに情報を収集する毎日です。

九州労災病院は現在6人体制で対応しており、カテーテルアブレーションも本格的に稼働し、高津先生を始めみんなで協力して頑張っていきたいと思えます。病院周辺の下曽根のコアな所も開拓したいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



今村香奈子先生より

22期生の今村香奈子です。2年間熊本労災病院で御世話になり、本年4月に戻って参りました。八代では新鮮なお米やお野菜を自宅から数分の物産館で手に入れることが出来ましたが、ここには冬から春にかけて八代の特産品の晩白柚もずらりと並びました。贈答用に立派な箱に入った数千円の3L～5Lサイズの巨大なものから、家庭用に皮を剥いた（おそらく皮はジャムなどの製品に用いるのだと思います）数百円の小さなものまで値段もサイズも様々であり、北九州ではなかなか手が出せなかった晩白柚をみかんやりんごを買う感覚で試すなど、小さな楽しさがありました。北九州でも自分の小さな楽しみを見つけていきたいと思っています。



岩垣端礼先生より

今年3月に2年間の産業医としての務めを終え、2年ぶりに静岡から北九州に戻ってきました。引っ越し代は出ますが車の輸送費は出ませんと言われてしまったので、850kmの道のりを1人車で帰ってきました。妻は私を残して1週間早く新幹線で帰って行きました。途中、鈴鹿サービスエリアでF1のマシンを見たり広島でお好み焼きを食べたりと、それはそれでいい旅でした。関門海峡を渡った時は帰ってきたんだなあとしみじみ感じました。2年ぶりに臨床に戻り、0からの再出発という気持ちで頑張っています。九州労災病院は雰囲気がよく、何でも相談しやすい環境で仕事ができるのはとても幸せです。高津部長はじめサポートしてくださる先輩方、頼もしい後輩と弟分的な後輩に感謝します。このような素晴らしい環境で臨床の腕を磨き、後輩にきちんと指導できるよう励んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



赤司純先生より

本年度で九州労災病院に勤務させて頂き、3年目を迎えました。昨年の医局便りにて九州労災病院に来られた先生と自身が習得した電子カルテの機能を自慢しあっていることを記載させて頂きました。今年度から新たに赴任された先生方が多く、電子カルテの使い方について聞かれる場面が増え、当初自分が赴任してきた時のことを思い出すとともに時の流れの早さを実感しました。また院内の様々な職種のスタッフの方々と知り合う機会も増え、一緒にバスケットボールをする機会に恵まれ仕事の際には見ることができない一面を見れたり、交流を持てたりすることができ、大変ありがたく思っています。運動不足とならないように運動習慣をもち、健康第一で頑張りたいと思います。



中村圭吾先生より

昨年度第2内科に入局し1年間大学で勤務し、今年度から初期研修を行なった九州労災病院に異動になりました。1年ぶりの九労では研修医時代とかわらず懐かしいことや、研修医の頃とは違った新しい事もたくさんあり日々楽しく過ごしています。昨年1年間の思い出は、大学で同期や先輩、病棟看護師たちと飲みに行ったこと、初めての学会発表、孤独な当直の恐怖などたくさんありますが、一つ選ぶとしたら仕事終わりに先輩に大学近辺にあるラーメン屋に連れて行って頂いた事でしょうか。大どんぶりに積み上げられたエコプローベ（セクタ型）ぐらいの太さの巨大なチャーシュー、浮くと言うより麺の上に塊で置いてある数センチ程の背脂、無限に湧いてくる麺！味はとて美味しかったのですが、途中から腹部膨満感と冷汗が止まらず何とか心頭減却で食べきったところ先輩から追加チャーシューが来てギブアップしました。また大学に戻ったらチャレンジしたいと思います。ラーメン好きの方には是非おすすめです。

独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院
門司メディカルセンター（北九州市門司区）
循環器内科

渡部 太一



同門の先生方、日々の診療お疲れ様です。平成27年より門司メディカルセンターに勤務しております23期生の渡部太一と申します。当院での近況をご報告いたします。

門司メディカルセンターは、北九州市の最東端、門司港地区内に設立された病床数250床の急性期病院です。関門橋をバックに目の前には門司港レトロがあり、とても風光明媚な地域です。日々多くの観光客で賑わっています。

当センター循環器内科は、昨年度に主任部長の川上和伸先生が熊本労災病院に異動され、新たに北九州市立八幡病院より佐貫仁宣先生が赴任されました。現在、循環器内科は渡部太一、佐貫仁宣先生、高橋正雄先生、谷口一成先生、腎臓内科の鐘江香先生の計5名体制で診療にあたっています。

北九州は、全国においても稀に見る大病院が集中している地域です。特に循環器領域においては、目下小倉北区に日本最大規模の専門病院もあり、症例の確保が困難な状況です。しかしながら、同門の一安弘文先生（一安医院）をはじめ、近隣の開業医の先生方からの御紹介もあり、徐々に診療実績は向上しています。

3年前よりカテーテルアブレーションが開始となり、年々症例数が増えてきております。一昨年前より心房細動に対するアブレーションも開始し、昨年度は年間68例カテーテルアブレーションを施行しました。また、本年4月より佐貫先生が赴任され、PCI及びEVTも順調に症例が増えております。また、本院の特徴でもある心臓リハビリテーションにも力を入れています。歴代の諸先生方、専任の理学療法士さん方のご尽力もあり、ここ数年は全国の労災病院で第1位の診療報酬を維持しております。腎臓内科に関しても、鐘江先生が透析センターを立ち上げられ、現在も着実に診療実績は向上しています。

門司港エリアは、北九州市の中でも特に高齢化率が高く、全国有数の超高齢都市と言っても過言ではありません。超高齢患者様は抱える疾患も多く、循環器疾患においても高度な治療を要するケースが多々あります。患者様からは「ぜひ家の近くのメディカルセンターで治療して欲しい」というご要望も多く寄せられており、我々としては、「門司地区の循環器治療はできるだけ門司地区で完結させる」というスローガンのもと日々精進して参る所存です。

最後に、平素より外来診療をお手伝いいただいております、産業医科大学の先生方、並びに患者様をご紹介下さる同門の先生方に心より感謝申し上げます。ぜひ門司港にお越しの際は立ち寄りください。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院（熊本県八代市）
循環器内科

仲 悠太郎



ご無沙汰しております。31期生の仲です。2018年4月に熊本労災病院に赴任し、一年間と短い赴任ではありましたが、充実した生活を過ごさせて頂きました。

2018年4月より前任の岡部宏樹先生との交代という形で赴任させて頂きました。前年度よりご活躍されていた今村香奈子先生を含めて循環器内科7人体制（産業医大第2内科から2人、熊本大学循環器内科から4人、自治医科大学から1人）で診療にあたっておりました。2019年3月をもって異動となりましたので、2019年4月より川上和伸先生、角森大樹先生のお二人が赴任され活躍しております。

熊本労災病院は熊本県南部の八代市に位置している病床数410床の中核病院の一つです。い草、晩白柚を名産とする農業が盛んな街で、最近では八代港の開発が進み、アジア地区からの客船の寄港も見られます。人口12万人と熊本県第二の都市であり、市周囲を含めた県南地域から年間4,000台近くの救急搬送があります。病院敷地内にヘリポートも完備しており、整形疾患が中心ですが天草・水俣地区からのヘリ搬送にも対応しております。

循環器内科部長である松村敏幸先生をはじめ、虚血性心疾患は阿部浩二先生、末梢血管は土井英樹先生、不整脈疾患は高島英夫先生（非常勤）・川上和伸先生と心臓・血管疾患に対して各専門家の指導もと診療にあたっております。

お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



北九州市立八幡病院（北九州市八幡東区） 循環器科

小住 清志



北九州市立八幡病院のご紹介をさせていただきます。当病院はJR八幡駅から徒歩約8分、皿倉山の麓に位置する総合病院です。近郊に八幡図書館、八幡医師会会館、JICA九州、九州国際大学、響ホール（クラシックホール）などが位置する場所で、これまで北九州市の成人・小児救急医療などの拠点として医療を提供するとともに、地域の基幹病院として市民の健康、安心、安全を支える役割を果たして参りました。

1963年の5市合併以来、当病院は北九州市が運営しておりましたが、本年4月より運営主体が地方独立行政法人へと移行し、職員の身分も公務員から団体職員となりました。また、これに先立ち、昨年12月末に、以前の立地場所から通りを挟んだ反対側の旧尾倉小学校跡地へ、無事新築移転致しました。新病院の建物は旧病院に比べ、曲がった通路が多く、やや複雑な配置構造であることから、引っ越し当初は院内で道に迷うことも多々ありましたが、次第に環境に慣れてきました。また、移転により格段に療養環境も改善したため、私が担当させていただいている患者様にも大変喜んでいただくことができました。

さて、当院循環器内科ですが、太崎博美副院長以下、現在合計6名が常勤医として在籍致しております。人事面では、佐貫仁宜先生、宮本太郎先生が本年3月末で退職された一方、本年4月より産業医大から石井望務先生が着任されました。また、同門の宮崎三枝子先生が本年4月より当院内科に着任され、診療を開始されました。

昨年度も当科は多種多様な症例に恵まれました。高齢化に伴い、同時に複数の内因性疾患を抱え、平行して治療をすすめる必要のある患者様も数多く来院されます。引き続き、各専門医と連携を図りながら診療にあたって参りたいと存じます。

今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



社会保険直方病院（福岡県直方市） 循環器内科

平川 晴久



平成24年8月1日より
社会保険筑豊病院は直方駅
前に移転し、名称を社会保
険直方病院へと改めて再出

発しました。当院は、急性期病床106床、地域包括ケア病床50床の病院です。循環器内科は私と五十住和彦先生、平成30年4月より赴任した下山尊弘先生の3名をはじめ、内科4名、外科4名、整形外科3名、泌尿器科1名、麻酔科1名の常勤医と耳鼻科、皮膚科、透析科、神経内科の非常勤医師が勤務しています。平成31年12月から飯塚病院心臓血管外科の松元崇先生による下肢静脈瘤の診療を中心とした心臓血管外科外来を開設しました。

外来延患者数は平成25年度が5,816人（紹介172人）でしたが、平成30年度は8,291人（紹介419人）と外来患者数も増加の一途をたどっています。検査および治療件数も平成25年はCAG175例、PCI30例、経皮的末梢動脈インターベンション（PPI）7例でしたが、平成30年にはCAG284例、PCI71例、PPI39例と5年間で約1.5～2.5倍に増加し、診療実績も飛躍的に伸びました。

当科ではインターベンションだけでなく、循環器医療全般にわたり高い医療水準を目指して診療を行っていることを認識してもらおうと、各方面で活躍されている先生をお招きして研究会を開催しています。

2018年度は下記の日程で研究会を開催しました。

- 4月20日、京都大学大学院医学研究科 医学統計生物情報学 教授 森田智視 先生
「NOAC臨床試験データの統計的解釈」
- 6月8日、産業医科大学医学部 第2内科学 学内講師 荻ノ沢泰司 先生
「心房細動と心不全の最新トピック」
- 7月19日、東京大学医学部附属病院 老年病科 講師 小島太郎 先生
「フレイル高齢者の安全は薬物療法～ハイリスク薬（抗凝固薬等）の高齢者の適用～」
- 9月26日、産業医科大学医学部 第2内科学 准教授 園田信成 先生
「心房細動・末期腎不全合併冠動脈疾患に対する抗血栓療法を考える」
- 11月9日、九州大学病院 循環器内科 講師 的場哲哉 先生
「二次予防ハイリスク患者にスタチン・非スタチン脂質低下薬をどう使うか」
- 1月16日、小倉記念病院 循環器内科 部長 曾我芳光 先生
「動脈硬化性疾患の二次予防」

直方鞍手地区は高齢化が進んでおり、需要は多いのですが、医師不足が深刻化しており、地域医療は崩壊の危機に瀕しています。直方鞍手地区は皆さんの力を必要としています。どうぞご協力をよろしくお願い致します。



東京大学医学部附属病院老年病科
小島太郎先生をお迎えして

萩原中央病院（北九州市八幡西区）
循環器・心臓内科

三浦靖史



第2内科の同門の皆さん、いつも大変お世話になっております。あっという間の一年ぶりの御挨拶です。齢をとって時の流れを早く感じるせいか、いつも医局便りに迫られている感じです。

産業医科大学の先生方には具合の悪くなった患者さんの急な転院、御加療の御願いを御快諾いただきありがとうございます。また大学の若い先生方には週末の日直、当直に御協力いただき大変ありがとうございます。急な日当直の御願い等で医局員の先生方にも御迷惑をおかけしている事と存じます。2内科の若い先生方は当院の若い看護師さんからもいやな顔をせず患者さんを見てくれると評判も良く、大変感謝しております。また、近隣の同門の先生方には日々の診療に際し、患者さんを御紹介いただきありがとうございます。また、御迷惑もおかけしている事と存じますがこれからもよろしく御願い申し上げます。

萩原中央病院は理事長である冬野喜郎先生、常任理事である冬野隆一先生を中心に循環器・心臓内科、消化器科、呼吸器科、糖尿病・代謝内科、膠原病科、リハビリテーション科等の診療科を有する内科主体の病院です。病床数は現在120床。常勤医は現時点で10名です。同門の渡辺先生が当院を退職され、減員で来ていたのですが、この春から長谷川潤先生を迎えることができ、スタッフ一同大歓迎で喜んでおります。長谷川先生は人柄も良く、スタッフや患者さんにも丁寧で看護師さんからも大人気です。仕事に対するフットワークも軽く、一緒に働けるようになりありがたい限りです。

呼吸器科は産業医大呼吸器科の矢寺和博教授をはじめ小田桂士先生、白石朝子先生に外来診療をしていただき、また、糖尿病・代謝内科、膠原病科は産業医大1内科の鳥本桂一先生、吉成紘子先生に外来診療をしていただいております。産業医科大学の放射線科からは森谷淳二先生、藤井正美先生、藤崎瑛隆先生、桑原千恵先生に当院の画像診断の読影を行っていただいております。

当院の消化器科は当院の院長で居られる筋田和文先生が御活躍です。大腸ファイバーの件数は年間800件を超えます。3内科より森野加帆里先生も内視鏡に御協力いただき、占部正喜先生にも御協力いただいております。しかし、消化器科の常勤の医師は筋田医院長のみで内視鏡をにぎりすぎて臍鞘炎に

悩ませられながら奮闘なさっておられます。

循環器科は同門の瀬川潤先生を中心に日々の診療を行っております。瀬川先生は日々の日常診療の激務の中、学会発表や講演会の座長等多岐にわたる仕事をこなし頭が下がります。久留米大学から若い先生方も出向で勤務されており、今年も久貝忠太先生が常勤にて勤務してくださっています。奄美大島出身の海人で人間性に素晴らしいものがあるいい先生です。心カテ件数も増え、若い先生方には毎日沢山心カテをしてもらっています。岡崎先生もお元気に心カテ、外来、心臓リハビリと御活躍です。特に当院のSASの診療にはもっぱら岡崎先生が行われ、お忙しい中当院の日直もいやな顔も見せずに行っていただき感謝しています。

恒例の当院での診療実績をまず報告させていただきます。2018年度の心カテ件数は、冠動脈造影検査（CAG）の総数が486件、冠動脈インターベンション（PCI）の件数が186件でした。冠動脈MDCTにまわる件数が増え、心カテ件数自体は横ばいといったところです。年々、患者さんは変わらないのにPCIが難しくなっている印象は例年通りで、高齢で糖尿病合併の高度石灰化病変、高度屈曲病変、びまん性の患者さんが増えております。Physiological PCTとのことでFFRによる虚血の評価も行っておりますが、最近はiFRのほうが主流になってきています。経皮的腎血管形成術（PTRA）が3例。経皮的四肢血管形成術は20例アブレーションは7例でした。また、ペースメーカー植え込み術は40例ありました。心エコーは年間3,800件を超え、尾辻教授にも御指導いただいております。

萩原中央病院ゴルフ部も相変わらずで、月に1度の定例会を行っております。ゴルフにお金を費やすのは無駄と分かっている時々やっています。天気の良い時には十分気晴らしにはなりますが…。

しばらく前に電子カルテを導入し、視力がどんどん悪くなっています。進んできた老眼を電子カルテのせいにしてしているような気もしますが。ともあれ、日常の臨床業務に結構忙しくて大変な毎日です。そうはいっても萩原中央病院はスタッフ一同が患者さんのためになればと思って働いている、いい病院であると考えております。スタッフの高齢化に伴い、私など老眼がすすんで細かい作業が大変です。ですから特に心カテがしたいと思っている若い先生が来ていただけますと沢山心カテできると思いますし、とてもありがたいです。長谷川先生も心カテ、PCI、EVTと意欲的にしてくれていますが、長谷川先生と一緒に心カテしませんか？その気があれば一声かけていただけますと幸いです。

